

「世界を変えるデザイン展」開催報告書



・目次

実行委員長挨拶.....	3
協賛・後援・協力.....	4
開催報告.....	6
展覧会概要.....	7
主な展示プロダクト.....	10
コミュニケーションツール一覧.....	15
カンファレンス.....	18
ワークショップ&トークショー.....	20
展覧会来場者属性.....	26
展覧会来場者の声.....	27
カンファレンス&ワークショップ参加者属性.....	28
カンファレンス&ワークショップ参加者の声.....	29
メディア掲載実績.....	30
主催・実行委員会.....	33

実行委員長挨拶

日本では初めてとなる BOP ビジネスに関する展覧会である「世界を変えるデザイン展」は、デザイン展としては異例の約2万人の方々に足をお運びいただくという盛況の内に無事閉幕する事ができました。これもひとえに各ご協賛・ご後援、ご協力いただきました皆さまからの多大なるご支援の賜物であり、主催者一同、厚く御礼申し上げます。

私ども実行委員会では、このような前例のない展覧会の可能性に懸けていただいたご厚情に対し、「どれだけ社会に響いてもらえるか」、という成果を重視して企画・運営してまいりました。そして、展覧会にご参加いただいた多くの参加者の皆さまの反応を見、いくばくかの報恩ができたのではないかと考えているところでございます。

ご参加された方々を細かく見てまいりますと、開催前より予測しておりましたデザイナーや途上国における開発協力活動に従事される方々の参加だけでなく、様々な業種、業界から多彩な才能を持った方々にお集まりいただくことができ、今後、途上国におけるデザインやビジネス活動について非常に大きな可能性を感じると共に、生産的な議論に向けたきっかけを提供する事ができたことを主催者一同うれしく思っております。

実際に自分の目で“現場”＝途上国の実情を感じる事が重要だということを感じた方が多くいらっしゃいました。また、現場から遠く離れたこの日本でも途上国へ向けたプロダクト開発等に少しでも関わりをもてるような仕組みが必要とされていることが展覧会だけでなく、同時に開催されたワークショップ、カンファレンスの参加者から得られた声より分かってきました。これらのニーズをベースとして、主催者並びに運営会社である株式会社グランマは今後、途上国のニーズを満たすプロダクト開発に取り組むと共に、日々改良されている「世界を変えるデザイン」について、より深い研究をつづけながら第二回目の展覧会開催に向けて活動して参りたいと存じます。

これをご縁とさせていただきます、今後とも引き続きご協力を賜りたく、どうぞよろしくお願い申し上げます。

この度は本当にありがとうございました。

世界を変えるデザイン展
実行委員長 本村 拓人

協賛・後援・協力

特別協賛

大和証券

Daiwa Securities

大和証券株式会社

協賛



アメリカ合衆国大使館

RICOH

株式会社リコー



SEITOKU株式会社



株式会社モバイル・テクニカ

後援

オランダ王国大使館



ブリティッシュ・カウンシル

PRO MEXICO

Trade and Investment

メキシコ合衆国大使館商務部

ルワンダ共和国大使館



パナマ共和国大使館



独立行政法人国際協力機構



独立行政法人中小企業基盤整備機構

世界を変える デザイン展

Imagine
another life
through
the products

企画協力

AXIS GALLERY

アクシスギャラリー

 **JIDPO**

財団法人 日本産業デザイン振興会

協力

PHILIPS

ロイヤルフィリップスエレクトロニクス

 **TU Delft**
Delft University of Technology

デルフト工科大学

 **英治出版**

英治出版株式会社

SONY

ソニー株式会社

 **ecoideasnet**
Supported by Panasonic

パナソニック株式会社



平和紙業株式会社

YFP 山田写真製版所

株式会社山田写真製版所



NATURE DESIGN
okazaki seizai tokyo studio

岡崎製材株式会社

 **Tanseisha**

株式会社丹青社

MWU

武蔵野美術大学
視覚伝達デザイン学科

 **JOICFP**

途上国の妊産婦と女性を守る
国際協力NGOジョイセフ



社団法人シャンティ国際ボランティア会



プラン・ジャパン



ジュレー・ラダック

運営

 **Granma** 株式会社Granma
More Imaginative Life

開催報告

【来場者数】

東京ミッドタウン・デザインハブ	14,614 人
アクシスギャラリー	5,300 人
総計	19,914 人

【概要】

発展途上国に住む人びとが直面する、さまざまな課題を解決してきた“デザイン”を紹介する「世界を変えるデザイン展」。第一回となる本展は、「現地の人びとの生活視点や発想」を出発点に、約 80 点のプロダクトデザイン、プロジェクトを紹介します。先進国におけるデザインは、世界総人口のほんの 10%を対象にしているに過ぎません。これからのデザインは、その他の 90%の人びとのニーズに目を向け、彼らの生活水準を向上させ、自尊心に満ちた生活を提供する使命をもっていると、私たちは考えています。本展は、発展途上国に存在する課題を [water] [food] [energy] [health] [housing] [mobility] [education] [connectivity] の 8 つに分類しました。そして、これらの課題を解決し、新たな市場や雇用を生んだプロダクトにフォーカスしました。1 日の平均収入が 2 ドル以下の発展途上国の人びとに対して、デザインができることは何か。どんなデザインが求められているのか。会場の多くの事例から、そのヒントを深めていければと考えています。

本展は発展途上国における課題を 8 つに分類し、それぞれにアイコンを作成しました。

water : 安全な水が手に入らず、水が媒介する病気にかかる。

food : 食糧不足と栄養不良による飢餓。

energy : 安定したエネルギー源を持っていない。

health : 基本的な医療サービスが受けられない。

housing : 住まいが無くホームレス状態で生活する。

mobility : 移動や輸送が困難で時間がかかる。

education : 識字率や初等教育修了率が低い。

connectivity : 情報へアクセスできず、情報格差が生まれる。

会場では、それぞれのプロダクトやプロジェクトが、どの課題を解決するデザインであるかをアイコンによって明記しています。

展覧会概要

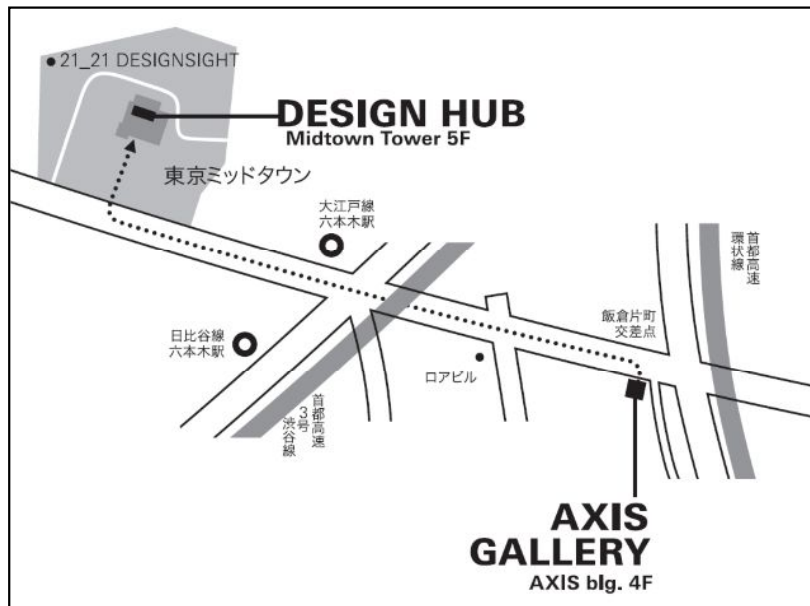
展覧会名称 「世界を変えるデザイン展
～Imagine another life through the products～」

入場料 無料

主催 世界を変えるデザイン展実行委員会、日本財団、
特定非営利活動法人 CANPAN センター

会場と会期 東京ミッドタウン・デザインハブ（港区赤坂）
5月15日（土）～6月13日（日）11：00～19：00
共催：東京ミッドタウン・デザインハブ

アクシスギャラリー（港区六本木）
5月28日（金）～6月13日（日）11：00～20：00
（最終日は17：00まで）
共催：アクシスギャラリー



DESIGN HUB（東京ミッドタウン・デザインハブ）

発展途上国で実際に使われているプロダクト約 50 点を、生活者の課題と、その解決方法を中心に展示します。個々がもつ機能は限られたものですが、製造コストを抑え、現地の多くの人びとにも流通しやすい製品の数々。発展途上国の人びとが見ている「日常の世界」を変えるプロダクトを紹介します。



[主な展示内容]

LifeStraw :

発展途上国では多くの人が安全な水にアクセスできず、コレラや赤痢に悩まされている。

Life Straw はその場で大量の汚水を簡単に飲料水に浄化できる使い勝手に優れたデザイン。河川や湖、水たまりから集めた水を内部のフィルターで濾過することで、ウィルスやバクテリアが除去される。

Treadle Pump（足踏み式ポンプ）:

世界の貧困層の約 70% が農村に暮らし、小規模な土地で農業を営み、収入を得ている。足踏み式ポンプは現地で調達できる素材を用いて製造され、安価な値段で小規模農家に提供することができる。これにより、乾季にも作物を収穫できるようになり、収入の向上につながっている。

AXIS GALLERY (アクシスギャラリー)

発展途上国市場への取り組みを積極的に推進している教育機関や企業、各種団体によるプロジェクトをデザインの視点から紹介します。現在進行中のプロジェクトを含め、その開発ストーリーやデザインプロセスを紹介し、今後の課題、これからのデザイナーの役割について考えます。



[主な展示内容]

One Laptop Per Child (100ドル・ラップトップ) プロジェクト:

OLPC は、マサチューセッツ工科大学 (MIT) のメディアラボを設立し、所長を務めていたニコラス・ネグロポンテ氏が主唱。「発展途上国の子供たちに教育を届けること」を目的に活動を続けている。初代 XO (イヴ・ベアール: デザイン) は、各国政府により、これまで数万台がアフリカや中南米で配られた。

デルフト工科大学 (オランダ):

ヨーロッパの発展途上国への取り組みにおいてハブ的役割を担い、経験に基づいた独自のメソッドを持つ。Philips や他の組織との協働プロジェクトも数多く手がけ、ワークショップや講演を各地で開催。同大学がまとめた「エマージング・マーケットにおけるデザイン」についての考え方や事例を紹介する。

主な展示プロダクト

■Jaipur foot

現地の人びとが製造できるゴム製義足



ジャイプールフットは、フィットしやすいゴム製の義足で、患者を診断した後 3~4 時間後に無料で提供している。米国の義足の平均価格は約 8,000 ドル。ジャイプールフットの製造原価は約 30 ドル。義足を装着することで歩行や自転車の運転ができるようになり、足を失った人も仕事に就けるようになる。また現地の人びとが義足を製造できるように、義足作りの技術教育も行われている。

Design : Master Ram Chandra Sharma and Dr P.K. Sethi(1968)

■Ceramic Water filter

現地の素材で製造できる簡易濾過装置



ポリバケツの中にセラミック容器を設置した濾過装置で、水中のウィルスやバクテリアを除去するプロダクト。製造コストが安く、現地の人びとでも容易に作ることができるため、結果として新しい雇用も創出した。不衛生な水の飲用が原因で下痢にかかっていた人が減少し、各家庭の医療費の負担も軽減した。

Design : Resource Development International(2003)

■d-light Kiran

太陽光充電式の照明器具



本体ジョブのソーラーパネルで一日充電することで、約 8 時間使用できる太陽光充電式の照明器具。光の強さは二段階調節できる。軽量なので天井や壁に吊るして、夜間の勉強や仕事、料理時に使用する。取っ手の角度を変えて持つことができ、夜道を照らすためにも利用されている。

Design : d.light

■Solar Cooker

太陽の反射光を、熱に変える調理器具



太陽光を中央に設置した鍋に反射させ、集まった熱で調理するプロダクト。それまで燃料として使っていたガスを使用しないため、ガス代やガスを買うための交通費を節約できる。料理にほかにも雪を溶かして飲み水を確保するために使用する地域もある。

■Cook Stove

屋内でも使用できる発煙量の少ない調理器具



クックストーブは、調理用の燃料を燃やす際に発生する煙や有毒ガスを80%削減することができる調理器具。合金の燃料質は熱効率が高く、燃料消費量を抑え、調理時間の短縮を実現した。発展途上国の多くの地域では、薪や動物の糞などを燃料としており、燃焼時に発生する煙やガスによる健康への悪影響が、深刻な問題となっている。

Design : ENVIROFIT (2009)

■Yellowone Needle Cap

使用済み注射針再利用防止のための収容容器

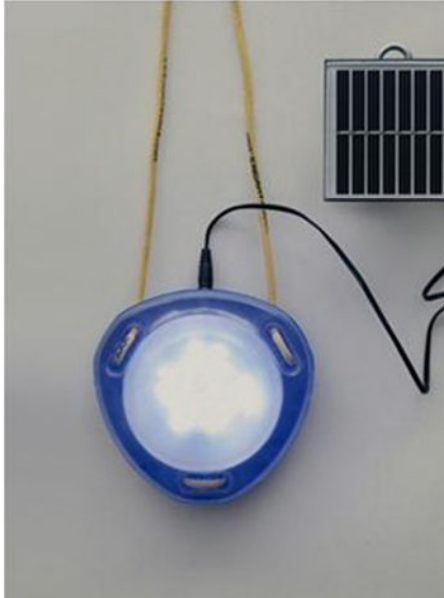


発展途上国では、使用済みの針が適切に処理されていないため、それらが転売、再利用され医療現場で行われる注射の約半分が安全でないと見積もられ、一度使用された注射針を再度使用することで、多くの人々がHIVやB型肝炎、C型肝炎などに感染している。穴のあいたプラスチックの蓋を空き缶に取り付け、使用済みの注射針をその穴に刺して針を分離する。空き缶と一緒に処理することができ、針の再利用を防ぐことができる。

Design : Han Pham

■Moon Light

ストラップ付き太陽光充電式照明器具



ムーンライトは明るさのレベルを 3 段階調節できる照明器具で、読者や仕事用（3~4 時間）、食事やおしゃべり用（6 時間）、日没後の生活用（6 時間以上）など生活シーンに合わせて使用することができる。現地には照明器具を置くための机がないため、使用者の首から吊り下げるためのストラップがついている。バッテリーの寿命は約 5 年間。

Design : デルフト工科大学学生（2009）

■DURON Solar Home Power System

さまざまな電力需要に使用できる太陽光充電装置



ソーラーパネルで充電し、さまざまな電気機器に電力を供給する太陽光充電器。照明機能であれば、明るい光を 4 時間、暗めの明かりなら最大 10 時間発光できる。日没後の料理・学習など、現地の人々の夜間の生活や、店舗内での電気需要に役立っている。またコネクタを換えれば携帯電話の充電やテレビへの電力供給も可能。

Design : DURON James Burgess, Co-Founder and VP of Product Development

■LifeStraw

泥水を飲料水に変える携帯用浄水器



ライフストローはストロー型の携帯用浄水器。活性炭などを使った濾過装置が川の水や、泥水に含まれるバクテリアやウィルスを除去する。一本で約 700 リットルの泥水を、飲み水へ変えることができる。

Design : Vestergeerd Frandsen S.A.

世界を変える デザイン展

imagine
another life
through
the products

コミュニケーションツール一覧

パンフレット：4種類



DM：10種類



世界を変える デザイン展

Imagine
another life
through
the products

タブロイド紙

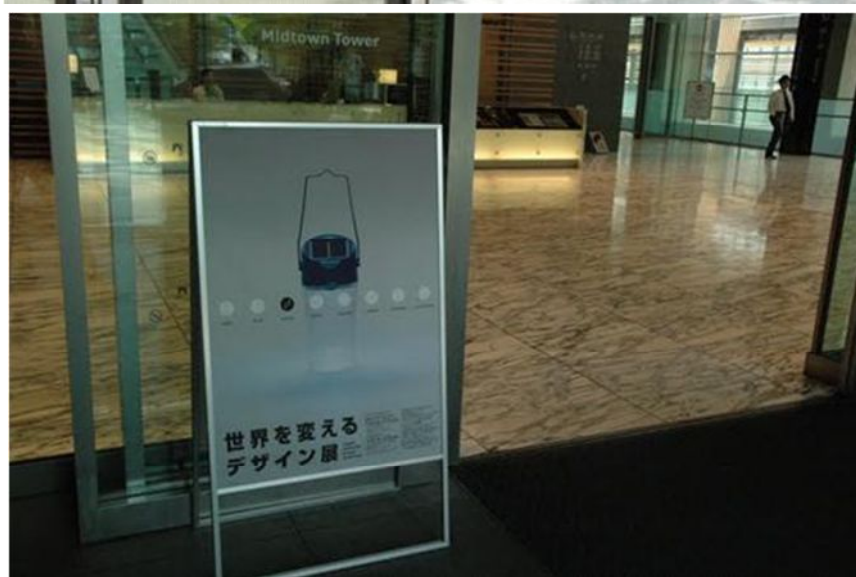


ポスター：4種類



世界を変える デザイン展

Imagine
another life
through
the products



カンファレンス

5/15 (土) UNDERSTANDING “EMERGING MARKET”

～エマージング・マーケットの現状を知る～

合計参加者数：136名

<p>12:00 -13:30</p>	<p>「現地プロダクトの流通、その生態系を語る —22 か国 96 万人に生きる希望を与えてきた義足」 スピーカー： Devendra Raj Mehta 氏 (BMVSS 創設者)</p> <p>概要：インドには 550 万人の四肢切断者がおり、毎年 2 万 5,000 人が病気や事故などの原因で手足を失っている。義足の価格は米国では平均 8,000 ドル。それに比べてジャイプールフットは約 30 ドルで製造される。低コストかつ短時間で製造可能なジャイプールフットの開発から製造・流通の経緯を語る。</p>
<p>14:30 -16:45</p>	<p>「現場の生態系を考え、未来をつくる企業戦略 —小規模農業者の収益を 10 億ドル向上させてきた IDE」 スピーカー： Michael Roberts M.S. (IDE Cambodia) 氏</p> <p>概要：足踏み式ポンプやドリップ灌漑システムを製造・流通を通じて、小規模農家を支援してきた IDE(国際開発エンタープライズ)。アジア、アフリカ諸国の小規模農家に対し、サステナブルなビジネスモデルを構築してきた経緯を語る。</p> <p>「途上国の起業家・事業家を支える画期的アプローチ ～ マイクロファイナンス・ボンドの商品開発とその成果～」 スピーカー： 大和証券株式会社 商品企画部 山本 聡 氏</p> <p>概要：既存の寄付という枠組みから、現地の自立を促す社会貢献的な投資に対する注目が高まっている。日本初のマイクロファイナンス投資商品「マイクロファイナンス・ボンド」をつくりあげた大和証券が、その意義や経緯を語る。</p>
<p>17:30 -19:00</p>	<p>「LifeStraw®はいかにして生まれたか？ -オランダ発エマージング・マーケットにおける大学・企業間連携」 スピーカー： Vikram Parmar 氏 (デルフト工科大学 デザインエンジニアリング担当助教授)</p>

	<p>概要：毎日約 6,000 人が汚れた水を飲み命を落としている。LifeStraw® は個人携帯用浄水器で、15 ミクロンといった小さな粒子をも取り除くことができる画期的な製品。グローバル企業と大学の連携によって生まれたプロダクトの開発のプロセスを詳しく解説する。</p>
--	--

5/16（日） Design Innovation ～世界を変えているデザイナーたち～

合計参加者数：266 名

<p>12:00 -14:00</p>	<p>「Lighting the World ーインハウスデザイナーが創出するニューマーケット」 スピーカー：Frank Altena 氏 (Sustainability Director, Philips Lighting)</p> <p>概要：Philips は、2000 年代より発展途上国をターゲットとした製品開発に取り組んできた。エネルギー効率の高い「光」のプロダクトを開発することで、生活改善、環境配慮、企業価値の創造を実現。フランク・オルタナ氏が、企業内デザイナーだからこそできる、デザインプロセスを語る。</p>
<p>15:00 -16:30</p>	<p>「エマージング・マーケットにおけるデザインの可能性」 スピーカー：Jan Carel Diehl 氏 (デルフト工科大学 D4S(Design for Sustainability)プログラム助教授)</p> <p>概要：発展途上国の人々と協働し、エンパワーすることで生まれるデザイン。カンボジアで活躍する kamworks (カムワークス) やアフリカの現場での事例を交えながら、エマージング・マーケットにおいて必要な「デザイン」の最前線を紹介する。</p>
<p>17:30 -19:00</p>	<p>「デザイナーができること -DESIGN CAN CHANGE THE WORLD」 スピーカー：Ilona de Jongh 氏 (Sprout Design)</p> <p>概要：「デザイナーには世界を変える力がある。デザイナーが素材を選び、設計することで生産プロセスが変わるのだから」と語るプロジェクトデザイナーのイローナ氏。彼女が全世界で、さまざまなプロジェクトを推進するなかで、感じたことを語る。</p>

ワークショップ&トークショー

<p>5/17(月) 13:00 -18:00</p>	<p>「Practical design to Reduce Poverty ～社会・経済・環境に相互利益を生み出すデザインとは?～」</p> <p>スピーカー：Jan Carel Diehl デルフト工科大学 所属 Vikram Parmar デルフト工科大学デザインエンジニアリング担当助教授</p> <p>【概要】 本ワークショップでは、以下の2つの事例を通じ、顧客のニーズ、新しい価値の創出、コンセプト、事業モデルと市場定義の策定を通じて、統合的な商品開発イノベーション・プロセスの紹介します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インドにおけるヘルスケアの事例 ・カンボジアにおける再生可能エネルギーの事例 <p>途上国の課題を理解し、先進国で使われている技術・機能・素材をいかに途上国の課題解決やサステナブルデザインに転用できるのでしょうか?</p>
<p>参加者数 25名</p>	
<p>5/18(火) 13:00 -18:00</p>	<p>「Practical design to Reduce Poverty ～デザイン思考が生み出すイノベーションとは?～」</p> <p>スピーカー：Ilona de Jongh Sprout Design 所属</p> <p>【概要】 世界各地でデザインプロジェクトを手がけている sprout design のイローナ氏。前半は、彼女がデザインを手がける中で大切にしている「デザインリサーチ」や「デザインシンキング」による調査手法に焦点を当ててトークショーを行い、後半は、これまでにフィールドリサーチをしてきた現場の事例を共有し、その背景を理解した上で、彼女の現場で行われている衛生教育をテーマとしたワークショップを行います。</p>
<p>参加者数 43名</p>	
<p>5/22(土) 13:00 -17:00</p>	<p>「南北問題を考え、世界の構造を体感してみるワークショップ」</p> <p>スピーカー：中村絵乃(開発教育協会 事務局長) 荒川理恵(ジュレー・ラダック 事務局長) 大谷美保(プラン・ジャパン コミュニケーション部開発教育担当) 鎌倉幸子((社)シャンティ国際ボランティア会 国内事業課)</p> <p>【概要】 近年、日本において注目を集めている「BOP ビジネス」。そもそも「BOP」</p>

<p>参加者数 30名</p>	<p>と呼ばれるに至った貧困の構造はどのようにして生まれ、何がその原因をつくっているのでしょうか？また現地の人々の生活と、そのニーズとは一体どのようなものなのでしょうか？</p> <p>本ワークショップは2部構成にてお送りいたします。</p> <p>1部では、マクロな視点から、南北問題をテーマに、2部では、現地で活動されている方々をお招きし、よりミクロな視点から現場のリアリティをお伝えいただきます。</p> <p>このワークショップ&トークセッションを通じて、BOP層の人たちが抱える課題とビジネスを結びつけたビジネスについて考えます。</p>
<p>5/23(日) 6/5(土) 14:15 -18:00</p>	<p>「形にしないワークショップ ～若者の防災意識啓発、防災力向上のためにできること～」</p> <p>Produced by NPO 法人プラス・アーツ</p> <p>【概要】</p>
<p>参加者数 32名</p>	<p>「若者（20代、30代）の防災意識を啓発し、防災力を向上させるためにどのような取り組みをすれば効果的か」というテーマに対して、デザイナー、アート、建築、都市計画、社会学、企業家等の様々な分野の人たちが混ざり合った「混成チーム」が議論、企画を検討するワークショップです。」</p>
<p>5/29(土) 13:00 -17:30</p>	<p>「現地の生活環境に配慮したデザイン開発」</p> <p>スピーカー：益田文和 株式会社オープンハウス代表取締役 東京造形大学デザイン学科教授</p> <p>【概要】</p>
<p>参加者数 74名</p>	<p>本ワークショップでは、実際にBOP市場向けの製品を考案します。</p> <p>そのターゲットは、全世界で1億5千万人いる喘息患者の3分の1が生活すると言われているインド。彼らの生活環境に配慮して、インドの人々が手に入れやすく繰り返し使用できるマスクのプロトタイプを考案することが、本ワークのゴールです。</p> <p>本ワークショップで目指すゴールは以下の3つです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 具体的なソーシャルイシューに対し、プロトタイプをつくってみる 2) サステナブルデザインの本質（現地生態系に配慮するといった点）を、ワークを通じ体感してもらう 3) プロトタイプを持って、実際に現地に行きたくならない循環をデザイナーにもたらすワークショップにご参加いただき、サステナブルデザインの実践を体感しませんか？

<p>5/30(日) 13:00 -17:00</p>	<p>「Life～日常の生活から感じる世界とのつながり～」 スピーカー：古屋典子（テーブルコーディネーター） 池上清子（国連人口基金東京事務所長） 北島大太郎（日本緑茶センター株式会社取締役） 生駒芳子（ファッション・ジャーナリスト）</p>
<p>参加者数 36名</p>	<p>【概要】 豪華ゲスト陣による、「Life（生活・命）」に関するトークセッション&ワークショップ。外務省・地球環境大使夫人として、「虹色の国—南アフリカからの食卓」など複数の本を出版してきた古屋氏。 貿易商社の取締役として、日本を結ぶ事業に取り組む北島氏。 ファッション・ジャーナリストとして、新たなライフスタイル「エコ・リユクス」を提唱する生駒氏。 国連人口基金東京事務所長として、今までに50カ国におよぶ現場で活動した経験を持ちの池上氏。 それぞれのフィールドは異なりますが、世界共通のLife（生活・命）を軸として、「食」「ファッション」「保健」をテーマに活動するゲストの方々。 「ご飯を食べる」「服を着る」といった毎日当たり前のように繰り返している行為の先に、世界とのつながりを感じるワークショップです。</p>
<p>6/6(日) 13:00 -18:00</p>	<p>「日本が世界にできること・Part1 ～残り90%の人々が本当に日本に求めているデザインと技術～」 スピーカー：アシル・アハメッド 九州大学大学院システム情報科学研究院 特任准教授（SSP 研究員） グラミン・コミュニケーションズ・プロジェクトディレクター 株式会社リコー BOP 志チーム 大和証券株式会社 商品企画部 山本 聡 氏</p>

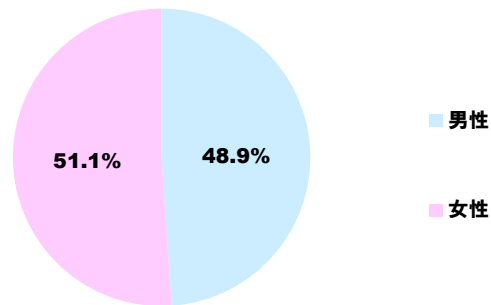
<p>参加者数 65名</p>	<p>【概要】 アシル・アハメッド氏によるワークショップ。本ワークショップは、以下の3つの流れを想定しています</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リコー社をはじめとする大手企業3社のプロジェクト紹介 ・BoP市場で展開できるデザイン理論の実践（ワークショップ） ・ワークショップであがったプロトタイプアイデアの今後の課題をディスカッション（パネルディスカッション、プレゼンテーション） <p>BOP市場での商品開発やデザインを視野に入れている企業インハウスデザイナーの方に必見のワークショップです。</p>
<p>6/12(土) 13:00 -19:00</p>	<p>「日本が世界にできること・Part2 ～日本企業が仕掛けるエマージング・マーケットの開拓戦略～」</p> <p>■セッション1 タイトル：インドネシアの経済概況と事業機会 スピーカー：山本幹（本田技研工業株式会社）</p> <p>■セッション2 タイトル：ソーシャルイノベーション企業への組織変容 ～21世紀グローバル市場で変化を起こす企業になるために スピーカー：野村恭彦（国際大学 GLOCOM 主幹研究員）</p> <p>■セッション3</p>

<p>参加者数 67名</p>	<p>タイトル：展示プロダクトの裏側を語る ～日本のベンチャー企業の挑戦～</p> <p>スピーカー：阿部吉雄（清徳建設株式会社）</p> <p>■セッション 4</p> <p>タイトル：BIGBUS: BOP Information Generation, Broadcast and Upload System</p> <p>スピーカー：Sabbir Alam（株式会社モバイルテクニカ）</p> <p>ファシリテーター：菅原秀幸 北海学園大学大学院経営学研究科 国際経営論教授</p> <p>【概要】 近年急速に成長を遂げており、貿易や投資の対象として注目が集まっている「エマージング・マーケット」へのチャレンジを続けてきた日本企業たちがいた。彼らは何を思い、日本企業がまだ展開していない市場に事業を切り拓くことに情熱を注ぎ込んでいるのか。 各企業を代表する方々に、多種多様なステークホルダーとの関係構築、潜在的ニーズを顕在化するマーケティング戦略、といった開拓戦略を語っていただくと同時に、日本企業が持つ強み、エマージング・マーケットにおける成功要因を共に考えていく。</p>
<p>6/13(日) 13:00 -18:00</p>	<p>「デザインはどこまで世界を変えられるか？」</p> <p>■セッション 1</p> <p>タイトル：日本のデザインにできること</p> <p>スピーカー：田中一雄（株式会社 GK デザイン機構 代表取締役社長） 高木美香（経済産業省デザイン室室長補佐） 清水正人（三洋電機株式会社 マーケティング本部アドバンスデザインセンター 所長） 能見拓男（三洋電機株式会社 マーケティング本部アドバンスデザインセンター モバイルエナジーデザイン部 担当課長）</p>

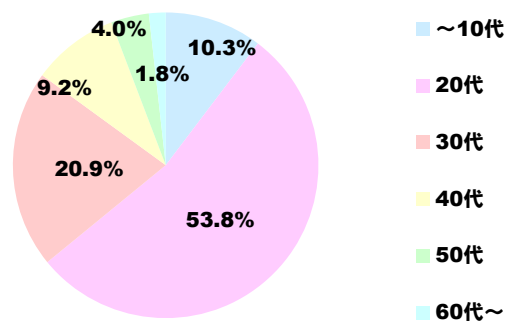
<p>参加者数 134名</p>	<p>瀬川秀樹（株式会社リコー 総合経営企画室 新規事業開発センター 副所長）</p> <p>■セッション2 タイトル：オープンソースの可能性 スピーカー：遠藤謙（MIT メディアラボ博士候補生/MIT D-lab Developing World Prosthetics 講師） NOSIGNER（ノデザイナー） 田中浩也（慶応義塾大学環境情報学部 准教授）</p> <p>■セッション3 タイトル：世界を変えるデザイン展が伝えたもの スピーカー：佐野恵子（アクシスギャラリー キュレーター） 酒井良治（財団法人日本産業デザイン振興会） 本村拓人（株式会社 Granma） ファシリテーター：槌屋詩野（日本総合研究所）</p> <p>【概要】 展覧会最終日となる13日は、「ソーシャルデザイン」「サステナブル」「オープンソース」「パーソナルファブリケーション」などがキーワードのトークセッション。"世界を変えるデザイン展"と題し、一か月間、開催してきた展覧会の総括の意味も込め、デザインはどこまで世界を変えられるのか？について、ゲストの皆様と議論していく。</p>
----------------------	---

展覧会来場者属性

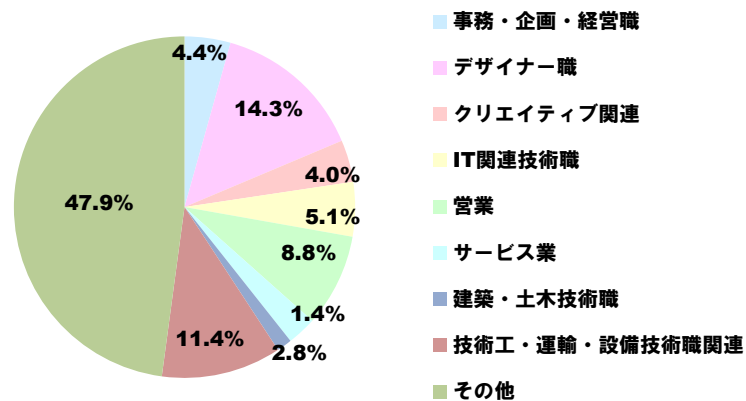
1.性別 N=2,508



2.年齢 N=2,506



3.職業 N=2,431



展覧会来場者の声（回答者数 2,879 名から抜粋）

本当に目を向けるべき問題を発見させてくれた。未だ発見されていない問題がたくさんありそうな予感を感じた。これをみた若く資本主義の奴隷となっているデザイナーが目覚めてくれるはず。

（20代・女性・建設設計）

入口のインフォメーショングラフィックスや、ピクト、説明文がとてもよかった。加えて、日本財団からのコメントもよかった。

（10代・男性・学生）

雰囲気・構成・会場内で実際にプロダクトに触れるところ。写真に撮れるところがよかった。

（30代・女性・デザイン事務所）

単なる国際協力や善いことという観点からでなく、デザイン性やビジネス性にスポットを当てている点。より現実的に感じられた。

（10代・女性・御茶ノ水女子大学）

子供に教えられて近くに寄ったついでに来場したが、世界の問題を身近に考えた。

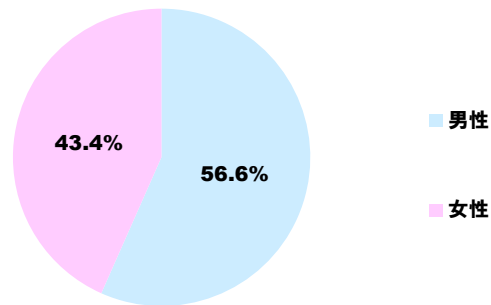
（40代・女性・主婦）

デザインのイメージが変わった。こういうことでも社会貢献できるんだと思った。

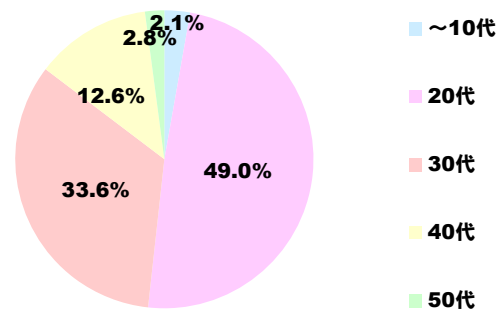
（20代・男性）

カンファレンス&ワークショップ参加者属性（回答数 143 名から抜粋）

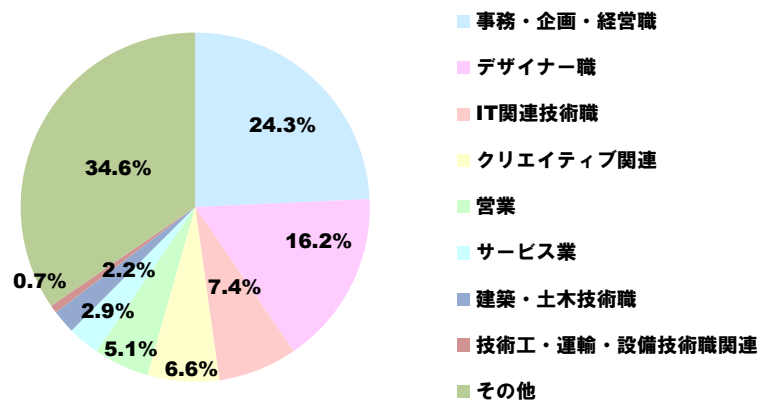
1.性別 N=143



2.年齢 N=143



3.職業 N=136



カンファレンス&ワークショップ参加者の声

いろいろな属性の人とオープンにブレストできたことはよかった。
一方で、考えるには材料（インドの問題・論点は何か？）が少なすぎると感じた。
また解決策としてマスクに絞るべきではないと思った。
（5月29日 ws 参加者）

大和証券さん、RICOH さんの取り組み内容を具体的に知れたほか、
ワークショップでは具体的なビジネスモデルを実際に考えることで、
今の自分にどんな知識や体験が足りていないかを痛感しました。
（6月6日 ws 参加者 20代・男性・学生）

このWSは年齢層が高く、そういう層を動かして集めたことはすごいと思う。
“企業の人”対象というキーワードは、“学生対象”より社会を動かすと思いました。
（6月6日 ws 参加者）

参加者が多様で発想もユニークなものがあった。
（6月6日 ws 参加者 30代・男性・NPO法人）

非常におもしろかったです。ワークショップも難しかったです、
ビジネスにすることのむずかしさを実感しました。
こういったネットワークの場を作っていただけるとありがたいです。
（6月6日 ws 参加者 30代・女性・広告代理店）

BOP 層が本当に何を望んでいるのかを把握するのが重要と思った。BOP 層が得るメリッ
トが明確になってはじめて普及すると思う。
（6月12日 ws 参加者 30代・男性・広告代理店）

世界を変える デザイン展

Imagine
another life
through
the products

・メディア掲載実績

日付	種別	媒体名	タイトル
2月24日	Web記事	マイコミジャーナル	BOPへの取り組みをデザインの視点から-「世界を変えるデザイン展」5月開催
4月28日	Web記事	J-NET	イベント告知
4月30日	Web記事	中小企業基盤整備機構	イベント告知
5月6日	記事	コンフォルト	
5月10日	Web記事	greenz.jp	イベント告知
5月10日	Web記事	HITSPAPER	イベント告知
5月15日	Web記事	Yahoo!	途上国の視点でデザインを紹介「世界を変えるデザイン展」
5月15日	Web記事	フジサンケイビジネスアイ	途上国の視点でデザインを紹介「世界を変えるデザイン展」
5月15日	Web記事	think the earth	「世界を変えるデザイン展」に行ってきました。
5月15日	Web記事	SOPHISTORY	イベント告知
5月15日	新聞記事	東京新聞朝刊生活面	
5月17日	Web記事	REALTOKYO	「世界を変えるデザイン展」
5月18日	ラジオ	J-WAVE:「BOOM TOWN」	世界を変えるデザイン展
5月19日	Web記事	axisjiku	連載コラム「tomosu」第9回「Lighting the World 世界を変えるデザイン展 カンファレンスより」
5月19日	Web記事	KENCHIKU	東京ミッドタウン・デザインハブにて「世界を変えるデザイン展」開催中
5月19日	新聞記事	読売新聞	途上国の生活 デザインで支援
5月20日	TV	テレビ東京:「NEWS FINE」	
5月21日	Web記事	OPENERS	生きていくためのデザイン、生きる世界を変えたデザイン 「世界を変えるデザイン展」開催中
5月24日	Web記事	ELLEDECO	途上国の貧困層に目を向けた「世界を変えるデザイン展」開催
5月24日	Web記事	六本木掲載新聞	ミッドタウンで「世界を変えるデザイン展」-最新プロダクト約40点を紹介
5月24日	Web記事	Yahoo!	ミッドタウンで「世界を変えるデザイン展」-最新プロダクト約40点を紹介 /東京
5月25日	Web記事	毎日.jp	貢献人たち:CSRの現場から マーケティング会社「グランマ」 /東京
5月25日	新聞記事	ハラルドトリビューン(ハラルド朝日)	EXHIBITION OF PRODUCT DESIGNS FOR DEVELOPING COUNTRIES
5月27日	Web記事	ファウスト・アドベンチャーズ・ギルド	デザインの力で世界は変わるのか!?途上国の生活向上を目指す意欲的な展覧会
5月28日	TV	U-LA-LA@7 イベント紹介コーナー	
5月31日	ラジオ	TOKYO FM	デザインの力で世界は変わるのか!?途上国の生活向上を目指す意欲的な展覧会
6月1日	雑誌記事	毎日RT創刊号	
6月7日	Web記事	フィガロジャポン	“もうひとつのデザイン”の可能性。「世界を変えるデザイン展」
6月7日	Web記事	ELLEDECO	まだ見ていない人は、今すぐ六本木へ!「世界を変えるデザイン展」
6月8日	Web記事	産経ニュース	貧しい国の子供にサッカーボールを 六本木で企画展
6月8日	Web記事	excite.ism	世界の90%の人たちを相手にするデザインとは?
6月8日	新聞記事	産経新聞	
6月10日	Web記事	esmo's book stack エスモの書棚	イベント告知
6月11日	新聞記事	日本経済新聞	“貧困”が映すデザインの本質
6月16日	Web記事	REALTOKYO	東京ミッドタウン・デザインハブ 特別展 関連セッショントークセッション「世界 を変えるデザイン展2.0」
7月22日	Web記事	REALTOKYO	036: from Tokyo『世界を変えるデザイン展』
	Web記事	GA info.	イベント告知
	Web記事	ジャパンデザインネット	イベント告知
	Web記事	TOKYO ART BEAT	「世界を変えるデザイン展」(アクシスギャラリー)
	Web記事	TOKYO ART BEAT	「世界を変えるデザイン展」(東京ミッドタウン・デザインハブ)
	Web記事	DesignChannel	イベント告知
	雑誌記事	国際開発ジャーナル	
	雑誌記事	ソトコト	
	雑誌記事	ブレーン	
	雑誌記事	Tokyo Notice Board	途上国にすむ人々が直面する課題を解決してきた“デザイン”を紹介する「世界を変 えるデザイン展」
	雑誌記事	TOKYO★1週間	みんなにやさしい道具は、ビジュアルも美しい

世界を変える デザイン展

Imagine another life through the products

2010年5月25日
 Herald・トリビューン

EXHIBITION OF PRODUCT DESIGNS FOR DEVELOPING COUNTRIES

The "Design to Change the World: Imagine Another Life Through the Products" exhibition is being held through June 13 at Design Hub in Tokyo Midtown and also at the nearby Axis Gallery (May 28-June 13).



A man uses the prosthetic Jaipur Foot.

On display at Design Hub are about 50 products to assist people in developing countries. They include LifeStraw, a portable water purification device, doughnut-shaped container Q Drum, which makes it easy to carry up to 50 liters of water, and low-cost prosthesis Jaipur Foot, which enables amputees in land mine-affected countries to work.

In Axis Gallery, projects by academic institutions, corporations and other organizations to help developing countries will be presented from a design point of view.

11 a.m.-7 p.m. (until 5 p.m. June 13 at Axis Gallery); free; visit (exhibition.bcp-design.com).
 "Post Fossil: Excavating 21st Century Creation," an exhibition showcasing about 130 works by 69 up-and-coming artists is also under way through June 27 at 21_21 Design Sight in the Tokyo Midtown complex.
 11 a.m.-8 p.m.; 1,000 yen (\$11) for adults; closed Tuesdays; near Roppongi subway station; (www.2121designsight.jp)

2010年5月19日
読売新聞



2010年5月15日
SankeiBiz

A screenshot of the SankeiBiz website. The main headline reads: "途上国の視点でデザインを紹介「世界を変えるデザイン展」" (Introducing Design from the Perspective of Developing Countries: "Design Exhibition to Change the World"). The article text discusses the exhibition's focus on products for developing countries, such as the Jaipur Foot and LifeStraw, and mentions the exhibition dates from May 15 to June 13 at Design Hub and Axis Gallery.

2010年5月12日
greenz.jp

A screenshot of the greenz.jp website. The main headline reads: "世界を変えるデザイン展" (Design Exhibition to Change the World). The page features a large image of a prosthetic foot and lists various participating organizations and products, including the Jaipur Foot and LifeStraw. The layout includes a navigation bar, a main content area with a featured image, and a sidebar with additional information and links.

主催・実行委員会

主催

世界を変えるデザイン展実行委員会

日本財団

日本財団
The Nippon Foundation

特定非営利活動法人CANPANセンター

CANPAN

共催

Tokyo Midtown
DESIGN
HUB
東京ミッドタウン・デザインハブ

AXIS GALLERY
アクシスギャラリー

実行委員会メンバー

委員長

本村拓人

Takuto Motomura

1984年4月28日生まれ。米国留学中、バングラディッシュの都市ダッカから人類発祥の地であるアフリカ大陸を陸路で歩みきる。こうした放浪中に資本主義の残した正と負の軌跡を直視した経験から、世界で約40億人いると言われているBOP(ベース・オブ・ザ・ピラミッド)＝年間の所得が「3000ドル未満」の層を「マーケット」と捉え、こうした人たちの潜在的なニーズを現場で観察し、収集しながら安価で、なおかつ生活向上に役立つ商品の流通から開発までを提供する事業を開始する。2009年4月に株式会社Granma(グランマ)を設立。代表取締役社長。

メンバー

飯石藍

Ai Iishi

五百蔵文乃

Ayano Ioroi

熊坂惟

Yui Kumasaka

小堤音彦

Otohiko Kozutsumi

小林さき

Saki Kobayashi

高田佑介

Yusuke Takeda

安田健一

Kenichi Yasuda

山本尚毅

Naoki Yamamoto

輪湖純也

Junya Wako

川崎清正

Kiyomasa Kawasaki

学生メンバー

九鬼麻菜実

Manami Kuki

栗本美可子

Mikako Kurimoto

鈴木大詩

Taishi Suzuki

西川翔揚

Syoyo Nishikawa

余語辰哉

Tatsuya Yogo

世界を変える デザイン展

Imagine
another life
through
the products

クリエイティブメンバー

| 会場構成

芦沢啓治建築設計事務所
Keiji Ashizawa Design

ドリルデザイン
DRILL DESIGN

橋本潤
Jun Hashimoto

| グラフィックデザイン

中野デザイン事務所
Nakano Design Office

河原健人
Taketo Kawahara

| プロダクト写真

尾鷲陽介
Yosuke Owashi

| Web制作

株式会社トナリ
TONARI Co.Ltd.

【報告書制作】

**世界を変えるデザイン展実行委員会
sekai_design@granma-port.jp**